

『はかないちらつき』

文明の上昇と下降に関するの考え

ローマの焼け跡に
伝説を築け

ビザンチウムの崩壊の後に
種を蒔け

西安の略奪のあとの
残骸を片づけよ

ティンブクツが寂れた跡に
詩を捧げよ

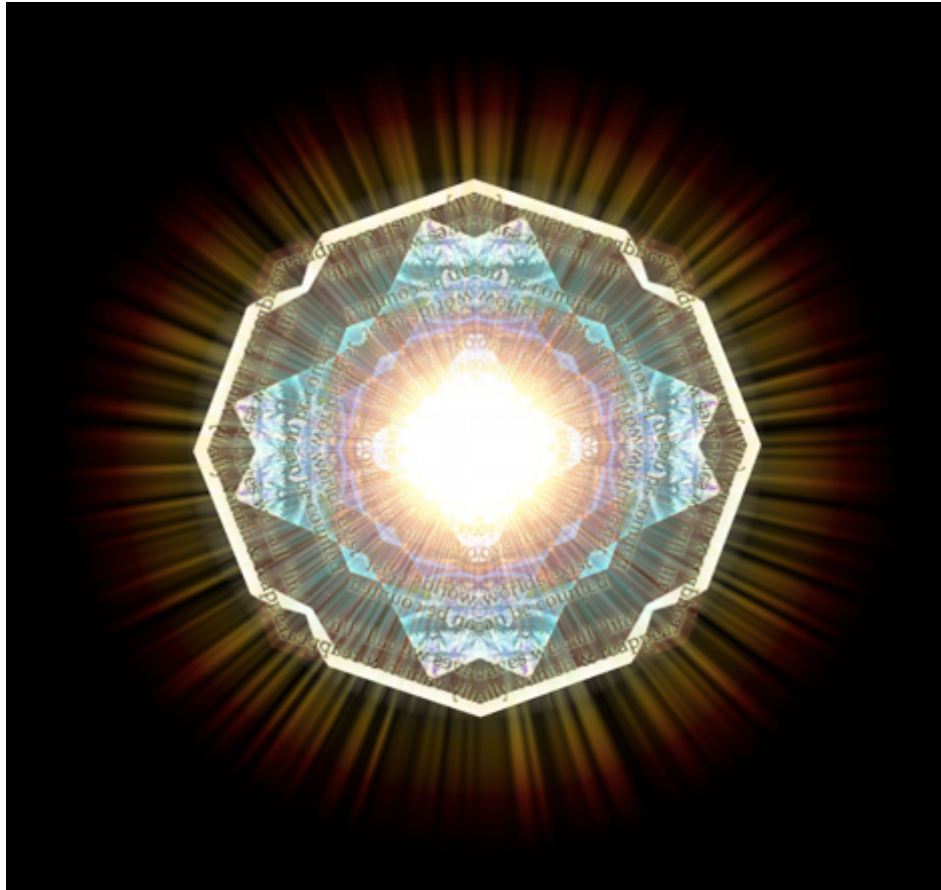
それぞれの都市が偉大さを反映した後も
この文明がゴミと化しても

恐れを知らない
別の世界が数えきれないほど存在する

われわれが「いのち」と呼ぶ波が
繰り返し
消えては現れ、消えては現れる

- T Newfields (和訳: 吉田典子)
開始: 1997年 静岡市・完成: 2018年 横浜市





ミン： (眉を上げる) この詩は楽観的だろうか、それとも悲観的だろうか？

ティン： 不思議にも、両方なんですネ。

ミン： (混乱しているかのように行動する) それはどんな論理で？

悟： (遊び心のある冗談で) 論理？ 議論に勝つためのトリック
なしかけではないのですか？

ティン： 多くの人々がそう主張しました。

玲亜： そこにより高度な純粋で数学的な美的秩序がありませんか？

ティン： (他の人といじる) なんとうっとりさせるような作り話でしょう！

ティム： 賛成！奇妙なるものは人間の夢です・・・